

カトリック 仙台教区報

1998年 11月1日 No.133

— 発 行 —

カトリック仙台司教区

〒980-0014 仙台市青葉区本町1-2-12

☎(022)222-7371 FAX(022)222-7378

日本宣教50年を祝う

ケベック外国宣教会

ケベック外国宣教会の日本宣教五十年を祝うミサが、九月十五日午前十時から青森県本町教会聖堂で行われました。四百名の信徒が歌う「主こそわがほまれ」の歌と共にボリュウ、クレポー、フォーレ、クルノイエ、デューメン、ゴードリー、ロワゼールのカナダから来た神父様方七名とベンサン菅区長、教区管理者鷹嘴神父、県内外の神父様方三十五名による共同司式で記念のミサが行われました。

「互いに愛し合いなさい。これがわたしの命令である」このヨハネによる福音書が朗読され、鷹嘴神父の説教、青森県各教会、修道会の代表による共同祈願、最後に「サルベ・レジナ」をうたって、感謝のミサは終了しました。



▲青森本町教会での日本宣教50年祝賀ミサ

ミサ終了後、農業共済会館で「感謝の集い」が行われました。各テーブルには、着席者に縁の深い神父様が席につき青森県、岩手県の教会、埼玉、東京都、広

島嶼町教会（カテドラル）からの出席者で満員でした。集いでは、なつかしいスライドも上映され、神父様も、信徒も、昔を思い出して喚声を上げることしきりでした。

「感謝の集い」でのスピーチでベンサン菅区長は「私たちは神様の命じられたことをして来ただけです」とあいさつされました。次にケベック外国宣教会総長ラヌヴィル・ローラン神父様のメッセージを総長顧問ロワゼール神父様が代読されました。そこにはパウロの手紙の一節を引用し、宣

教する者の思いが綴られていました。そして「今日のお祝いが過去の思い出だけでなく皆様の共同体が一つに結ばれ一人一人が洗礼の恵みを新たに味わうことができまうように。私達を選ばれたことはすべての人が神様に愛され皆が兄弟姉妹であることを伝えることができまうように」と結ばれました。

謙遜で暖かみのある神父様一人一人が健康で活躍されまうよう聖霊の導きを共に祈り、「あめのきさき」の歌で感謝の集いが終わりました。

ベトレヘム外国宣教会

カトリック岩手県大会において

九月二十七日、盛岡白百合学園ホールでカトリック岩手県大会が開かれました。今年岩手県を司牧しているベトレヘム宣教会の宣教五十周年と、岩手カトリックセンターの二十周年の記念の年にあたります。今年のテーマは「福音宣教の足跡 未来への飛躍」。ホールには岩手全県から四百余名の信徒が集まりました。

午前十時、十五名の司祭による記念ミサで始まりました。説教は鷹嘴神父。「貧しい者、弱い立場にいる者、苦しむ者と共にある生き方を、自分の生き方としてどう生きるべきか」を説かれました。記念講演は、ベトレヘム宣教会菅区長A・ツゲル神父による「私の証し人となりなさい」。アジア司教会議のメッ

セージの中で特に強調されたのは「どんな時にも無条件に一方的に愛される喜びの中に生きている私達は、今自分が体験している愛を、人々に言葉ではなく自分の生きていく姿で伝えて行くこと。これこそが福音宣教である。イエスは、『私の証し人となりなさい』



▶盛岡白百合学園でミサ

い」と言われた。「人の造った壁を打ち壊し、ひとりひとりが神に愛され、大切な存在であることを表すことが今の日本の教会の使命である。」

「私達は教会の中でもっと互いに兄弟姉妹である意識を大切にしたいほうがいい。教会共同体は神の愛を表す場であるのだから。」

後半はベトレヘム宣教会への感謝の集いとなり、白百合学園吹奏楽部の東北一の名演奏に大きな拍手が送られました。壇上に立たれた十名の神父様の来日以来のエピソードに涙ぐんだり笑ったり。亡くなった四人の神父様の写真にヨセフ師がしみじみと語りかけられたのが印象的でした。五十年のご苦労に深く感謝し讃美歌を歌って閉会しました。

福島県カトリックの集い

九月十三日

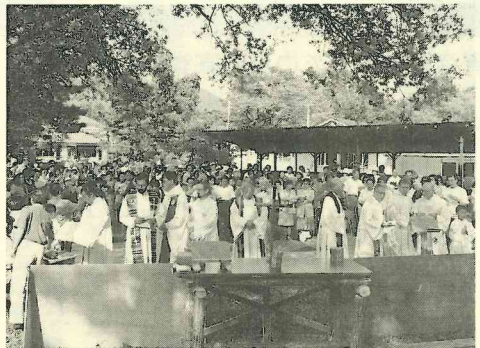
会津若松教会

去る九月十三日、福島県カトリックの集いが、会津の裏磐梯を会場とし、大船渡教会の山浦玄嗣氏、典礼聖歌の新

垣壬敏氏を講師とし、県下の二七〇名を超える信徒によって開かれました。

テーマは昨年の「紀元二〇

▶裏磐梯における野外ミサ



〇〇年の到来、キリスト再発見」を受け、今年はその二年目で、「聖霊」の御働きを身をもって味わおうと、サブテーマに「神はそれぞれの人にそれぞれの賜を与えてくださった」と、それぞれの人の力を出し合って、ミサを用意し、また集いの分科会に加わりました。

緑に包まれた爽やかな大自然の中で教区管理者の鷹背神父の司式のもと七名の神父と共に、主の創造の御手を賛美しつつ手作りのミサ聖祭が捧げられました。

分科会では「典礼聖歌の練習」「マザーテレサに学ぶ」「信仰の分かち合い」「事業者

の集い」等について話し合い、また、青少年の野外活動の部等も設けられました。このうち「事業者の集い」は、今まで教会の表向きだけのテーマにならなかつた面だけに新しい企画として好評でした。

カトリック宮城県大会 メインテーマは「聖霊に導かれる教会」



▶基調講演の杉田神父

山浦先生のユーモアあふれるケセン語を混ぜえたキリストの人間性を探る講演は笑いに終始しながら感銘を与え、新垣先生の指揮による典礼聖歌のミサは感動と忘れ得ぬ思いを参加者に与えました。

カトリック宮城県大会が、七月五日、仙台市の聖ウルスラ学院中・高等学校の講堂及び体育館で、県下各教会から約五百名が参加して開催されました。

大会のメインテーマは「聖霊に導かれる教会」で、基調講演は、千葉県佐原教会主任司祭杉田 稔神父が行いました。

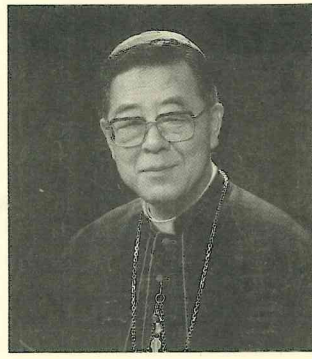
杉田神父は「聖なる典礼は、教会の全活動を果たすものではない。

キリスト信者は、キリストが命じたすべてのことを守るように教え、愛徳と敬謙と使徒職のあらゆる行いを勧めねばならない。この行いによってキリスト信者はこの世からの者ではないが、世の光であって、人々の前で御父に栄光を帰していることが明らかにするのでなければならぬ。」と述べました。

佐藤千敬司教 仙台教区長を退任

六月十九日付

仙台教区長佐藤千敬司教が
教皇ヨハネ・パウロⅡ世の御
裁可を得て、六月十九日に仙
台教区長を退任しました。



六月十九日付

佐藤司教は、七月に日本の
各教区、修道会、仙台教区内
の各小教区にあいさつ状を送
られました。同司教は、これ
に先立って六月二十九日付で、
「仙台教区長退任に当たって」
という書簡を教区内の信徒へ
あてて送っております。そ
の内容は、書簡に記されてい
る退任の理由と同じ、健康上
の理由により辞任を申し出
ていたということです。

退任のあいさつ

私儀

このたび、健康上の理由に
よりローマ教皇に辞任を申し
出ておりましたが去る六月十
九日をもって仙台教区長の職
務を退任いたしました。二十
二年の永きに及ぶ在職期間で
したがその責務を十分に果た
し得なかったという忸怩（じ
くじ）たる思いもあります。
今後のことにつきましては、
加療の必要もありまだ決めら

れない状態ですが、久しぶり
に修道者の生活に戻るよう
な気持ちで祈りと読書に励み、
神の福音が日本の同朋の心
深く根づくように祈念しなが
ら日々を過ごして参りたいと
願っております。
永年に亘るご厚情に心から
感謝申し上げますとともに、
ご健康に留意されご活躍をお
祈り申し上げます。
一九九八年七月

前仙台教区長・司教

佐藤 千敬

書簡では「昨年の夏以降、
私に起こった思いがけない出
来事（入院・手術・療養）に
よって、青森県から福島県に
亘る広大な地域において教区
長としての責務を果たすこと
は極めて困難な状態に陥って
しまいました。
『何事にも時があり、天の
下の出来事にはすべて定めら
れた時がある』（コヘレト3・
1）」という言葉を改めて痛感
させられました。そこに神の
み旨が明らかにされているこ
とを悟りました。そして私は
教区長の若返りを心から祈り
求めました。（中略）

司教座が空位（教区長が欠
けている状態）になると司教
総代理の権限は消滅します。
司牧評議会も消滅し、その任
務は教区顧問団によって代行
されます。
新教区長が着座するまでの
間、教区顧問団によって選出
された「教区管理者」によっ
て遂行されます。その教区管
理者は、『教区長の義務と権
利を有し、その任務は新教区
長の着座をもって終了する。』

佐藤千敬司教の功績

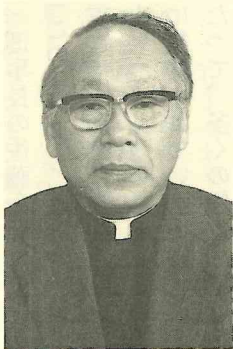
一九二六年三月三十一日仙
台市に生まれました。

一九七六年九月小林司教の
後任として第七代仙台教区長
に任命されました。

佐藤司教は二二年間仙台教
区長として教区民の信頼を集
め、毎年「年頭司教書簡」を
仙台司教区の前信徒に向け出
し、新年度の宣教司牧方針を
示しました。

佐藤司教は一九八四年宗教
法人の幼稚園を、学校法人と
して一本化しました。光が丘
スペルマン病院の経営に尽力
され、今年九月特別養護老人
ホーム「パルシア」を完成さ
せ、また五月東北初のホスピ
ス病棟をスペルマン病院に併
設するなど社会福祉事業に貢
献されています。

教区管理者に 鷹鷲達衛神父



佐藤司教が退任されました
ので、後任の司教が選任され
るまでの空位の期間、教区顧
問会は教区管理者として鷹鷲
達衛神父を選びました。
この期間は司祭評議会、司
牧評議会は消滅しております
がその期間にも円滑に教区運
営ができるように職務を代行
することになります。

鷹鷲達衛神父の略歴

鷹鷲神父は、一九二八年四
月十二日盛岡市生まれ、一九
五六年司祭叙階。西仙台教会
助任を振り出しに青森県大湊
教会主任司祭を経て、今年四
月一日司教総代理となり六月
十九日までその職にありました。
師は教区立幼稚園にモンテッ
ソーリ保育を導入し、その協
会の東北支部長を務めていま
す。九五年には教育者文部大
臣表彰を受けています。

計報

ベトレム会前管区長ガル
トマン神父様は、十月十七日
スイスで帰天されました。八
十三歳。ご冥福を祈ります。

施設整備協力制度 十月から事業開始 各県から運営委員

仙台司教区内の教会で施設を改修しようとしても資金不足で困難な場合、司教区全体でバックアップしようという制度です。今年四月から施設整備協力制度として発足し、十月から事業運営を開始しました。

この制度の事業は二つあります。
一、小規模な教会が、聖堂、司祭館、信徒館などの改修工事をする時にはこの制度から工事費の一部を無償で支援しようという制度です。

二、教区内のすべての教会に対して教会施設の改修工事をする場合、工事費の一部を無償で融資するという事業です。小規模な場合には無償援助と資金融資の双方の適用を受けることもできます。

教会分担金

教会分担金の実際の取扱としては各教会毎に皆さんの負担額を取りまとめ一年分を二回に分けて九月と三月に納入

します。教会分担金の金額は
a 教会維持費年額の七％に相当する金額、b 維持費納入者数×二百円×中二ヶ月分に相当する額
a、bどちらにするかはその教会に一任しました。

運営委員会

この制度の運営委員会は対象となる教会を適正に選定し、援助金額または融資金額を決定します。

この制度の適用を受けたい教会、または制度の運営について説明を聞きたい教会は、あらかじめ県選出の運営委員に相談することをお勧めします。運営委員は左の通りです。

- | |
|-------------------------|
| 佐藤 守也 (教区長直任、教区付司祭、委員長) |
| 神田 香苗 (" " 、副委員長) |
| 横島 健二 (" " 、教区付司祭、事務長) |
| 今井 則三 (青森県選出、弘前教会所属) |
| 千葉 安夫 (岩手県選出、志家教会所属) |
| 竹内 省三 (宮城県選出、八木山教会所属) |
| 清水 照雄 (福島県選出、郡山教会所属) |
| 目黒 齊 (教区長直任) |
| 氏家 忠志 (" ") |

特別養護老人ホーム

「パルシア」が落成

九月二十五日

社会福祉法人カトリック児童福祉会(理事長佐藤千敬司教)が建設中であつた特別養護老人ホーム「パルシア」が完成、九月二十五日午前十一時から仙台市燕沢東において、落成式を行いました。理事長の佐藤千敬司教、宮城県浅野知事(代理出席)を始め関係者約百人が出席して挙行されました。

式典は、聖歌「愛といつくしみのあるところ」の歌、聖書朗読マタイ福音書五章一節から十節まで「山上の垂訓」を朗読して始まりました。



▲挨拶する佐藤理事長・司教

理事長の佐藤千敬司教は、「この「パルシア」を一言で言えば、最初に歌った歌「愛といつくしみのあるところ」に集約されている。建設にあたって、多くの個人、団体から献金、その他の協力があつた。感謝している。」とあいさつしました。

特別養護老人ホーム「パルシア」は二階建鉄筋コンクリート造り、定員は五十人、原則として六十五歳以上で、身体上、精神上に障害があり、常時介護を必要とする方で、在

宅介護が受けられない方が対象です。

入所希望の方は、市町村の福祉事務所に相談し、申し込みの手続きをして下さい。

そのほかショートステイも二十人を定員として受け入れ、またデイサービスセンターでは十五人程度がサービスを受けられます。

そのほか在宅介護支援も行っています。

十月一日から職員二十七人によってサービスが開始されています。

緩和ケア

光ヶ丘スベルマン病院

ホスピス病棟の案内

光ヶ丘スベルマン病院のとなりホスピス病棟が五月九日完成しました。

ホスピス病棟は二階建てで定員二十人、入院手続等は外来受け付けで申し込みを受けています。入院の費用は、健康保険本人は二十二万八千円、被扶養者も同額。国民健康保険本人、家族も三十四万二千円老人医療三万三千元。

食事代は二万二千八百円(一ヵ月)

病棟では、看護婦二十名、ボランティア二十名、その他多くの奉仕活動によって支えられています。

入院希望の方は、光ヶ丘スベルマン病院ホスピス病棟〇二二二九八八五八〇に電話を掛けて、お聞き下さい。

人事

ベトレム会のヨハネ・シュルテンベルグ神父様は、ご病気のため九月三十日スイスに帰国されました。